

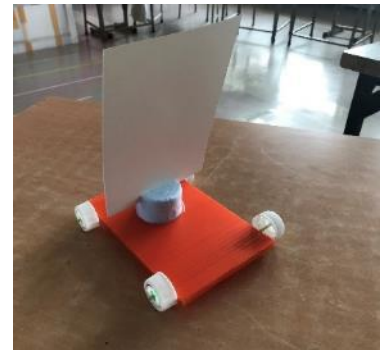
教材教具および題材	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
風やゴムの働き	中	せいかつ (理科)	近泉智弘

<ねらい>

- ・風やゴムの力で動く物を作り、風を当てた時やゴムをひっぱった時の物の動く様子を比較しながら、風やゴムの力は物を動かすことができることを捉える。

<内容（作成方法・使用方法・工夫点など）>

・ウインドカーは、身近な材料を使用しながらも、個体によって実験結果に差が出ないように、サイズを細かく統一し、取り付け位置も統一して作成した。



・数字カードを並べることで、進んだ距離を視覚的に把握できるようにし、「遠くまで進む」、「少しだけ進む」の比較を数字で簡単に捉えられるように工夫した。

・一台の車で、風、ゴムの2つの動力に対応できるように工夫した。（ゴムの時は、前方にクリップを取り付け、ゴムを引っかける）

<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

- ・自分の車を一人一台作成することで、生徒一人一人が、興味を持って取り組む姿が見られた。
- ・数字カードを並べることで、進んだ距離が把握しやすく、力を調整する取り組みも、「〇番で止めて」などのわかりやすい指示で伝えることができ、生徒も理解しやすかったように思う。

<その他（材料、費用、購入先等）>

プラスチック段ボール、竹串、ペットボトルキャップ、発泡スチロール、厚紙